

行頭だより Vol.2



4月25日(日)10時より、米づくりオーナーの活動が行頭の農地でスタートしました。

予定では「モミまき」作業を午前中に、午後には、野菜作りの畑作りと鹿、猪から農作物被害を防ぐ「鹿柵づくり」を行う予定でしたが、事前準備されていたモミが発芽し始めたため、三浦自治会長が4月23日に急きょ、苗床作りとモミまきをしてくださいました。(モミまきは発芽とのタイミングが重要なようです。)

よって、25日には、9名のオーナーが作業に参加されましたが、午前中に苗床のようすを確認した後、行頭分校に隣接する農地に移動し、畑作りを行いました。

春だということに5月までは早朝、霜が降りることもあるので、さつまいもや枝豆の苗植えは後日にして、里芋(石川早生)を1kg分植えました。



延野公民館前の田んぼでは、モミまきがすでに完了。薄く均等にまかれたモミには白い発芽が見られました。1ヶ月で田植えができる状態にまで成長予定!



▲公民館の八重桜



格子の鹿柵で農地を囲み、猪が入らないように波板でガード。高さ2mに網を張りました。トラクターで耕したあと、野菜作りのための畦づくり。最後に草が生えないように黒いマルチを張りました。

はじめて植えた野菜は、里芋の種イモでした。

*「石川早生」(里芋)は全国的に栽培の多い早生丸型品種です。親芋と茎は食べるには不向きですが、子芋のつきがよく子芋は肉質はち密で多収性のため、芋煮会やおせち料理に活躍します。

